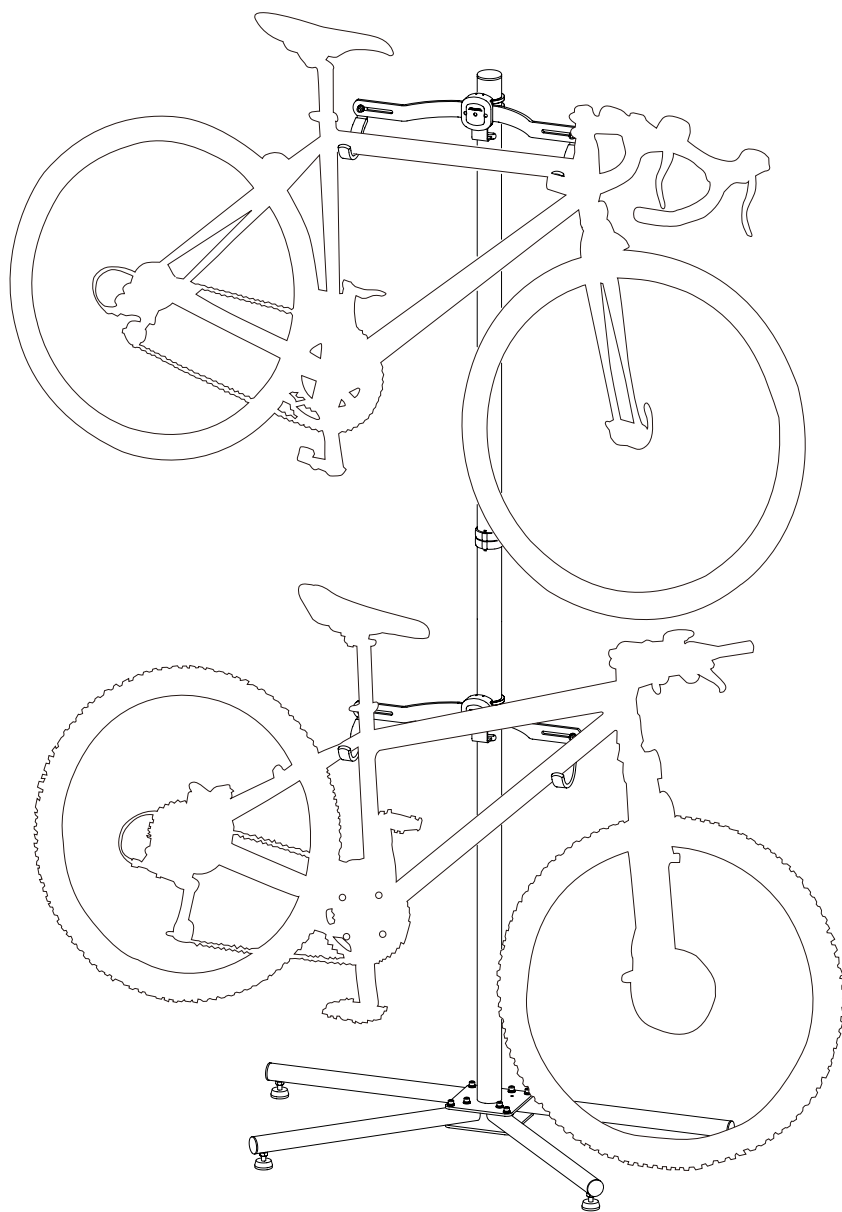


! ご使用の前にこの説明書を最後まで読み正しくお使いください。



(脚をK字型にした状態での使用例)

P-500AL-7S の特徴

- 支柱は軽量で錆びにくいアルミ製。支柱の耐荷重は最大 100kg まで (X 字脚の場合)
- 設置場所や収納台数に合わせて、ベース形状は脚を組み換えることでK字型あるいはX字型の 2 パターンが選べます
- バイククレードルはアルミ製クランプにより簡単に装着・位置変更が可能
- フックは自転車を掛けやすいロープロファイルタイプ。フレームを傷つけない樹脂パッド仕上げ。最大 70mm 径までに対応
- クレードルはシンプルで丈夫なアルミ製フラットバーに。角度とフック幅調整が可能

! 注意していただきたいこと

- 通常の 2 輪自転車専用です。重量バランスの取りにくいタンDEM車やリカンベント、ロングテール車ではお使いいただけません。また重量のある自転車は上段クレードルでは使わず、下段でのみお使いください。
- 各脚のアジャスタを正しく調整し 4 ヶ所の接地点が同時に床に接しつつ、支柱が正しく直立するように設置してください。
- 上下支柱の連結部ボルトは定期的にチェックし、緩みのないように増し締めしてください。横から見て支柱が「く」の字に曲がってきていたらボルトが緩んできています。
- 上段クレードルにだけ自転車が残りをする際は重心が高くなり不安定になります。
- トップチューブで掛けてください。ダウンチューブだけでは不安定になります。
- クレードルを固定するボルトは正しくクランプにねじ込んでください。またクランプはアルミ製のため締め過ぎに注意してください。ねじ穴をなめてしまいます。
- K 字型脚にセットした場合は、後方への転倒による事故を防止するため背面が壁になる場所に設置してください。またオプションの各種アタッチメントは、支柱背面には装着しないようにしてください。

お問い合わせ先

組み立て方や使い方についてのご質問は、まず最初にこの商品を購入したショップにお問い合わせください。万一部品欠品などがありましたら弊社カスタマーサービスにまでご連絡ください。

<販売元>

株式会社 フカヤ

〒 460-0015 愛知県名古屋市中区大井町 1-37-3F

Phone: (052) 228-8910

Fax: (052) 228-8917

Web: www.fukaya-nagoya.co.jp

<製造元>

株式会社 箕浦

〒 503-2312 岐阜県安八郡神戸町下宮 134-1

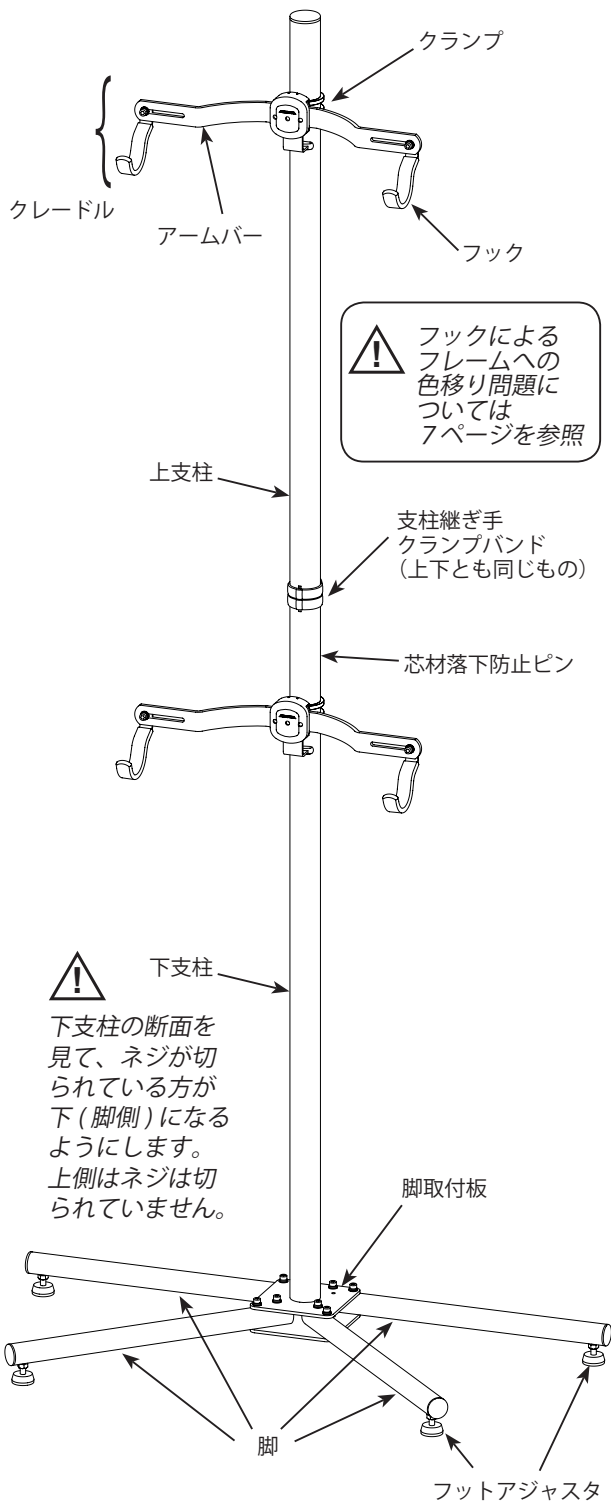
Phone: (0584) 27-3131

Fax: (0584) 27-7505

Email: infodesk@minoura.jp

Web: www.minoura.jp

P-500AL-7S の各部の名称



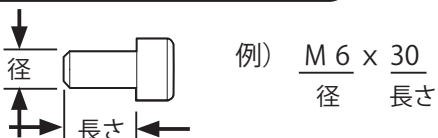
組み立てに必要な工具

5 ミリ六角レンチ (添付)	1 本
13 ミリスパナ (添付なし)	1 本

(添付されていない工具はご自身で用意してください)

ボルトサイズの読み方

(単位：ミリ)



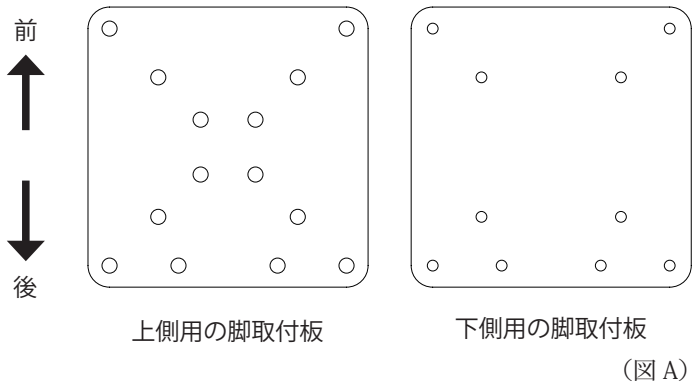
P-500 をK脚で組み立てる

脚をK字型で組み立てると、壁などに寄せて省スペースに自転車を収納できるようになる反面、バランス不良による後方への転倒を避けるため自転車は前面だけにしか搭載できず、搭載台数も2台に制限されます。

1

まずはじめに脚取付板を確認します。

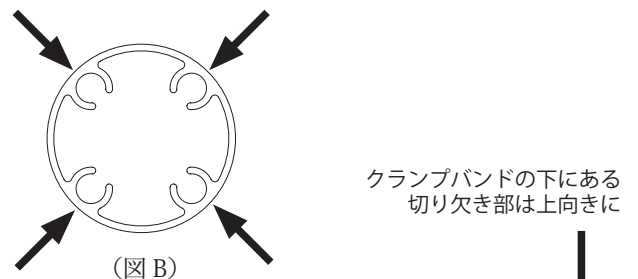
2つは同じものではなく形は異なります。上側になるものはボルトが素通しできるような大きめの孔があけてあり、中央に下支柱に取り付けるための4つの孔が設けられています。下側になるものはボルトをねじ込むためのネジが切られた小さい孔があいており、中央部の4つの孔はありません。また孔のパターンはそれぞれ上下対称ではありません。外縁部に横並びに4つあいている側が背面側になります。(図A)



2

次に下支柱の上下方向を確認します。

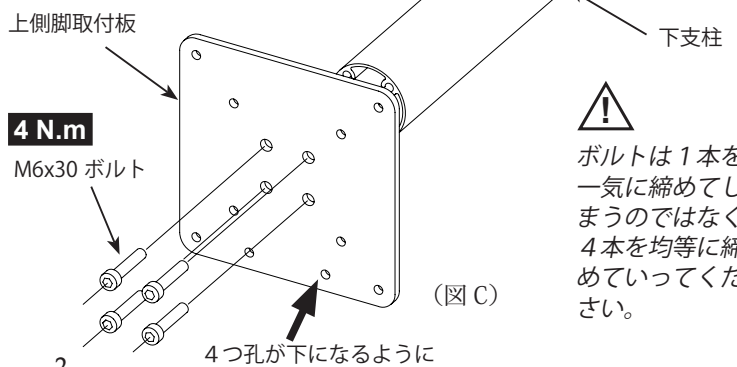
下支柱の断面を見て、4つあるC字型の溝部分にボルトをねじ込むためのネジが切られている方が下側(脚が取り付けられる側)になります。ネジが切られていない方は上支柱と接続される側になります(図B)。(上支柱には樹脂キャップが装着されています)



3

支柱は、クランプバンドの下にある切り欠き部が正面に来るように使います。

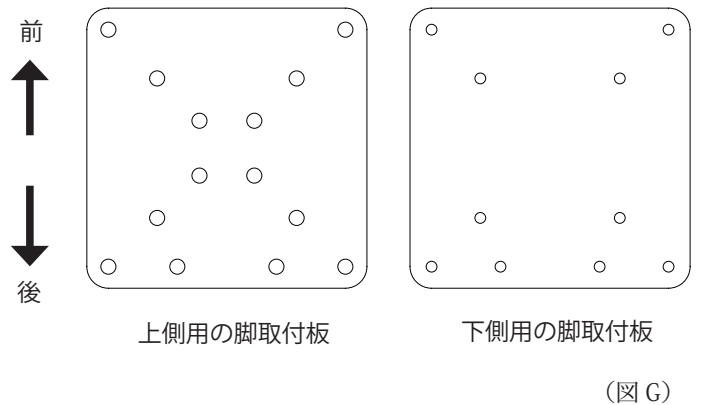
切り欠き部を上に向けて置いた下支柱に、上側脚取付板を図Cのようにセットし、中央の4ヶ所の孔にM6x30ボルトをねじ込み、添付の5ミリ六角レンチを使って4N.mで締め付けて固定します。



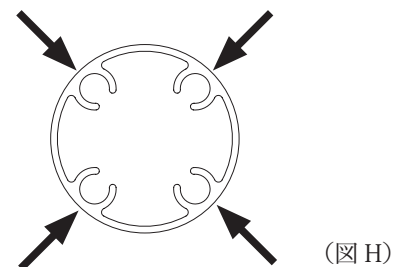
P-500 をX脚で組み立てる

脚をX字型で組み立てると脚の踏ん張りが効くようになるため、支柱前面の他に背面にも別売アタッチメントを取り付けて収容台数を増やすことができますようになります（最大4台まで。ただし合計荷重は最大 100kg まで）。またK脚のように方向性が決められてしまうことがなくなるので自由に配置できます。その反面、設置面積はK脚よりも大きくなります。

- 1 まずはじめに脚取付板を確認します。2つは同じものではなく形は異なります。上側になるものはボルトが素通しできるような大きめの孔があけてあり、中央に下支柱に取り付けるための4つの孔が設けられています。下側になるものはボルトをねじ込むためのネジが切られた小さい孔があいており、中央部の4つの孔はありません。また孔のパターンはそれぞれ上下対称ではありません。外縁部に横並びに4つあいている側が背面になります。（図G）



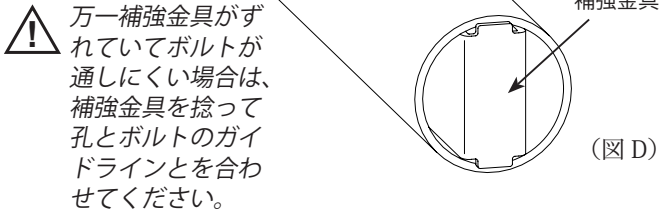
- 2 次に下支柱の上下方向を確認します。下支柱の断面を見て、4つあるC字型の溝部分にボルトをねじ込むためのネジが切られている方が下側（脚が取り付けられる側）になります。ネジが切られていない方は上支柱と接続される側になります。（図H）（上支柱には上端に樹脂キャップが装着されています）



- 3 K字型で脚を組む場合は下支柱じたいの方向性が決められていますが、X字型では決まっていません。どちらを向いても構いません。

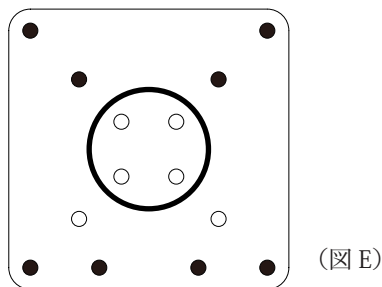
下支柱に、上側脚取付板を図Iのようにセットし、中央の4ヶ所の孔に M6x30 ボルトをねじ込み、添付の5ミリ六角レンチを使って **4 N.m** で締め付けて固定します。

- 4 続いて脚を取り付けていきます。脚は4本とも同じサイズです。フットアジャスタの反対側の端には、ボルトをねじ込んだ際にパイプがつぶれてしまわないように補強金具が入っています。（図D）この金具がちゃんとすべての脚に奥まで挿入されていることを確認してください。金具がない状態の脚は使わないでください。



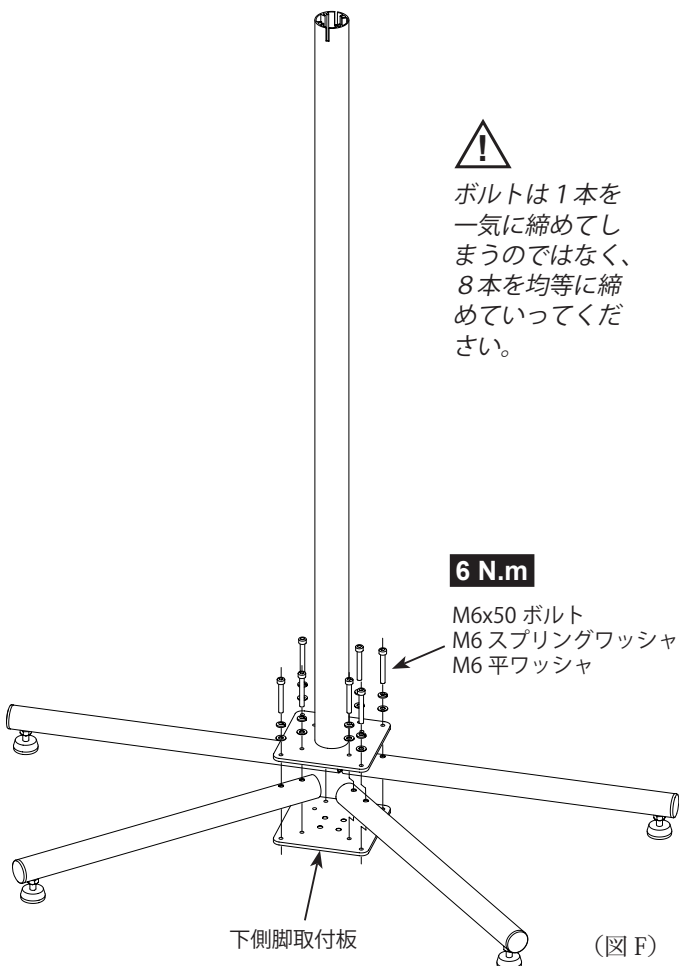
万ー補強金具がずれていてボルトが通しにくい場合は、補強金具を捻って孔とボルトのガイドラインとを合わせてください。

- 5 4本の脚をK字型に並べ、それを上下の脚取付板で挟んだ状態を、8本の M6x50 ボルトを脚を貫通させて止めます（図Eの黒丸印部分を使います）。ボルトは上側から通し、下側脚取付板のネジ孔に **6 N.m** でねじ込んで固定します。

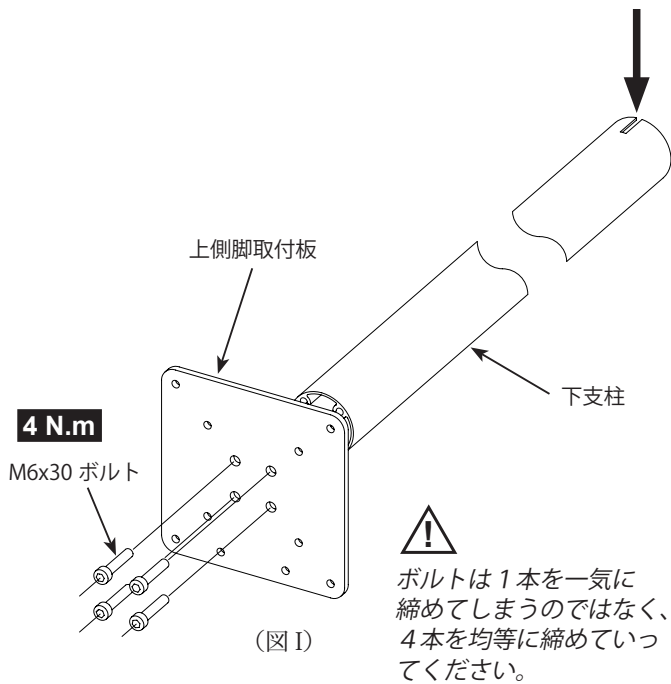


ボルトは1本を
一気に締めてしま
うのではなく、
8本を均等に締
めていってください。

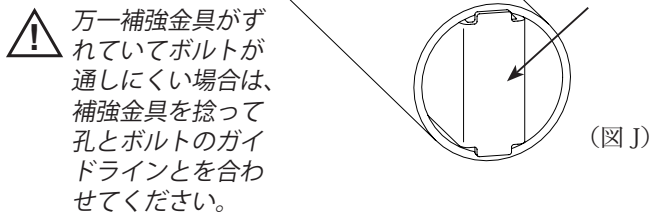
6 N.m
M6x50 ボルト
M6 スプリングワッシャ
M6 平ワッシャ



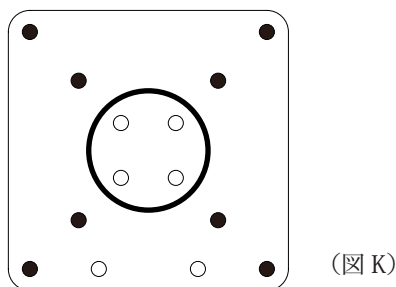
クランプバンドの下にある切り欠き部は
X字型の場合はどこを向いてもよい



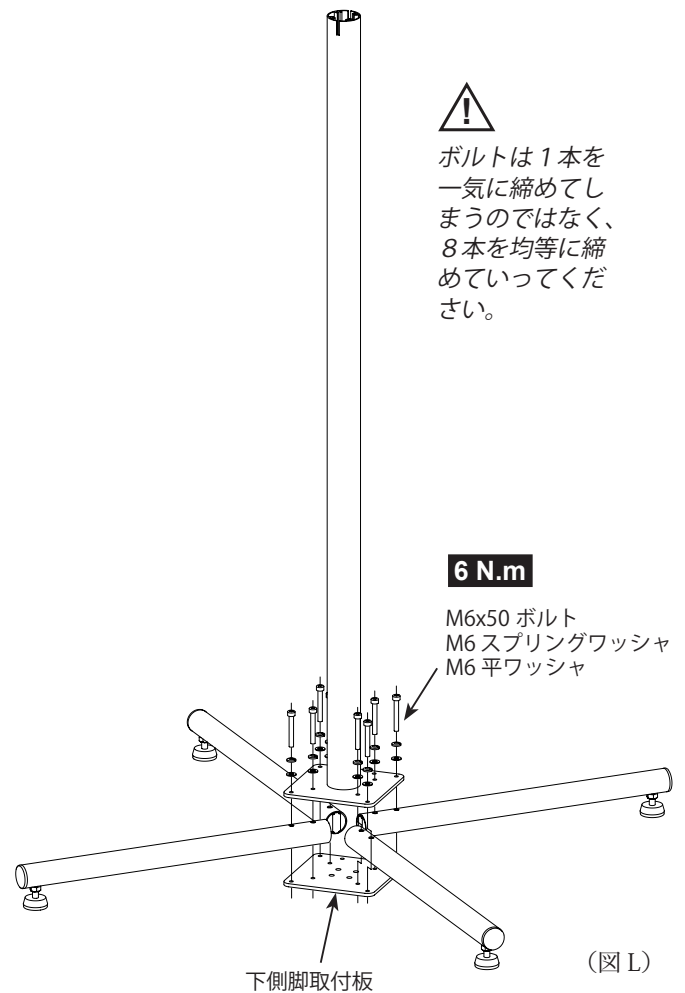
- 4** 続いて脚を取り付けていきます。
脚は4本とも同じサイズです。フットアジャスタの反対側の端には、ボルトをねじ込んだ際にパイプがつぶれてしまわないように補強金具が入っています。(図J)
この金具がちゃんとすべての脚に奥まで挿入されていることを確認してください。金具がない状態の脚は使わないでください。



- 5** 4本の脚をX字型に並べ、それを上下の脚取付板で挟んだ状態を、8本のM6x50ボルトを脚を貫通させて止めます(図Kの黒丸印部分を使います)。
ボルトは上側から通し、下側脚取付板のネジ孔に**6 N.m**でねじ込んで固定します。



!
ボルトは1本を一気に締めてしまうのではなく、8本を均等に締めていってください。



フットアジャスタについて

フットアジャスタは、4点が同時に床に接地し、がたつきなく支柱が垂直に立つようにその長さをそれぞれに調整します。

アジャスタはねじになっているので、ゴム部分を回して長さを調整します。
長さが決まったら、ロックナットを脚パイプ側に当たるまで回し、13ミリスパナで締め込んで保持します。

付属の丸シールについて

本商品には、フットアジャスタの裏側に貼る丸い透明シールが4枚添付されています。
これは、フットアジャスタのゴムと床板もしくはカーペットなどの相性が悪く色移りしてしまうことを防止するためのものです。
薄い色のクッションフロアなど色移りが懸念されそうな場合には、あらかじめこのシールをそれぞれのフットアジャスタの裏に貼って直接触れないようにしてお使いになることをお勧めします。

上下支柱をつなぐ

P-500AL-7Sの支柱は一本ものではなく、上下2本に分かれています。支柱は上下とも同じ太さで、芯材を間に挟んでつなぐという構造です。上支柱にはあらかじめ芯材が取り付けられています。それを下支柱に挿入してクランプバンドを締め付けて固定するという方式です。

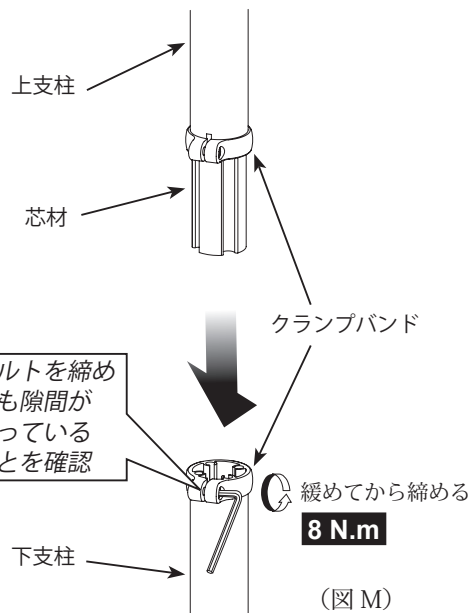
- 1 まず下支柱側のクランプバンドを5ミリ六角レンチで緩めておきます。
- 2 上支柱に取り付けてある芯材部分を下支柱に挿入します。(図M)
- 3 上支柱を下支柱にしっかりと密着させたまま、クランプバンドを8 N.mで締め付けて固定します。上側のボルトも同じく8 N.mで締めめます。



クランプバンドのボルトは定期的に締め付け具合をチェックし、緩んでいたら増し締めしてください。ここが緩むと支柱が崩落してしまうおそれがある重要なポイントです。



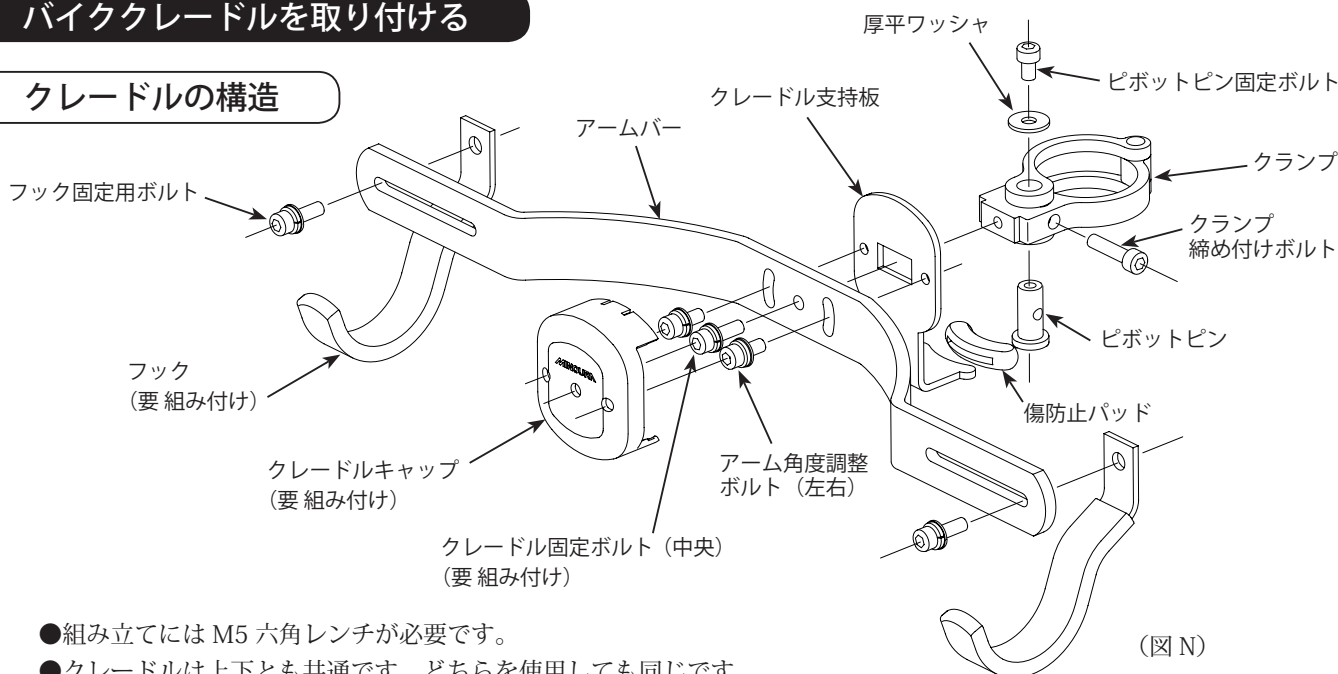
強すぎる力でボルトを締めるとクランプバンドが伸びてしまいます。もしバンドの端と端とが接触してしまう状態になっていたらそれ以上は締めませんので、バンドを交換する必要があります。



(図M)

バイククレードルを取り付ける

クレードルの構造



(図N)

- 組み立てには M5 六角レンチが必要です。
 - クレイドルは上下とも共通です。どちらを使用しても同じです。
 - P-500AL-7S が採用しているクレードルは、バイクタワー 25D のものとは異なり、クレードルが一段手前に突き出しているタイプとなります。これはできるだけ自転車を支柱から遠ざけ、かつペダルが支柱に干渉しないようにするためのものです。同じものは「バイククレードル 25.2」の名称で別売もしています(手前への段差のないものは「25.1」という名称です)。P-500 にクレードルを増設する際は 25.2 の方が適しています。
- なおクランプの樹脂シムは、バイクタワーとは異なり P-500 では支柱は太い方の 45 ミリ径のみなので付属していません。

- 1 クラмпはあらかじめ支柱側に装着されており、お客さまによってクレードルをクラмпにボルトで取り付けいただけます。クレードルは支柱のどこにでも固定可能ですが、脚をK字型にする場合は必ず正面(斜めに開いた2本の脚の中央)に向かって取り付けてください。X字型の脚にした場合は、どの向きになっても構いません。



クレードル固定ボルトをクラмпにねじ込む際は、ボルトがねじ孔に対して斜めにならないように注意してください。斜めにねじ込むとねじ孔を破損させることになり、そうするとクラмпを有償で交換しなければならなくなってしまいます。



クラмпには左右の方向性はありませんが、ピボットピンは必ず下から挿入され、ピボットピン固定ボルトは上からねじ込まれるようにしてください。

2

まずクランプの突起部分の先端にある一段盛り上がった長方形の部分を、クレードル支持板の四角孔にはめ込みます。(図 N)



クランプの突起は完全に支持板の孔にぴったりと収まるようにしてください。
どこかが乗り上がったままになっていると、アルミ製で軟らかいクランプの角がつぶれて変形してしまったり、クレードル固定ボルトがクランプに対して斜めにねじ込まれる形となり、クランプ側のネジ孔が壊れたりしてしまいます。
ネジ孔の潰れたクランプは修理することができないので、その際はお客さまの費用負担でクランプを交換するしかありません。



ネジというものは、ある浅い角度では少しねじ込めてしまうという構造上の特徴があります。
ねじ山が噛み合わずにほんの1~2回転で止まってしまうのですが、それをネジ孔の中に塗料などの何か異物があってそれに引っかかって止まってしまったのだと勘違いして、無理に工具を使ってねじ込んでしまうのは間違いです。
少なくとも3回転くらいは軽くねじ込めることを確認してから、やっと工具を使っての本締めを行なうようにしてください。

3

付属部品セットの中にあるキャップボルト M6x20 をアームバーの中央の丸孔に通してクランプのねじ孔にねじ込み、5 ミリ六角レンチで締め込んでクランプとアームバーとを組み立てます。

4

フックをアームバーの両端に取り付けます。
フックは掛ける自転車のフレームサイズに合わせてその間隔を変えることができます。適宜調整してください。

5

最後にクレードルキャップを支持板にはめ込みます。
はめ込む際は、まずキャップを上向きに斜めにし、キャップ下側の切り欠き部を支持板の腕部にあてがって位置決めしてから、上に持ち上げるようにしながら支持板に押し込んではいめ込みます。

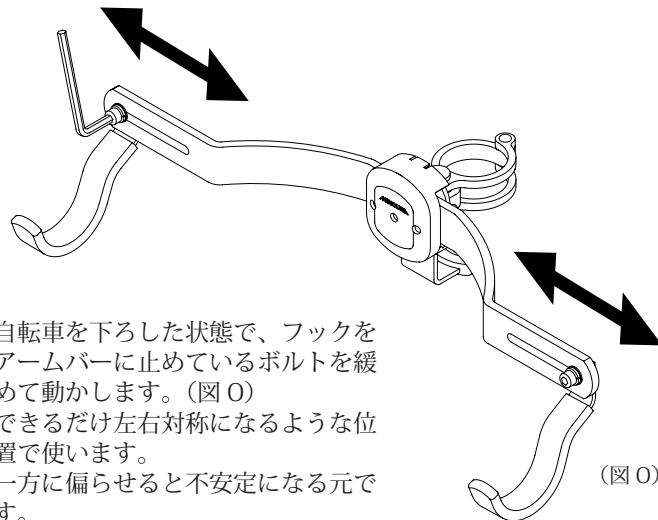


クレードルキャップをはめ込んでからは、クレードルの角度調整や取り外しを行なう際は、キャップにあいている孔に六角レンチを差し込んで中にあるボルトを緩めて行ないます。
クレードルをクランプから外すためクレードル固定ボルトを緩める際は、クレードルをクランプに押し付けた状態では行わず、緩めるにつれてねじの力で自然にクレードルがクランプから徐々に浮いてくる動きを妨げないでください。緩めたボルトがクレードルキャップを押し出して外してしまったり破損させてしまいます。
もし外れてしまったら、先にキャップの下側を支持板に引っかけてから、上側を押し付けてはめ込むようにして取り付けてください。

クレードルの幅と角度の調整

搭載する自転車のフレームサイズやトップチューブのローピング形状に合わせられるよう、フックは左右にスライドあるいは回転、アームバーは全体で角度を変えることができます。

アームの左右スライドのしかた

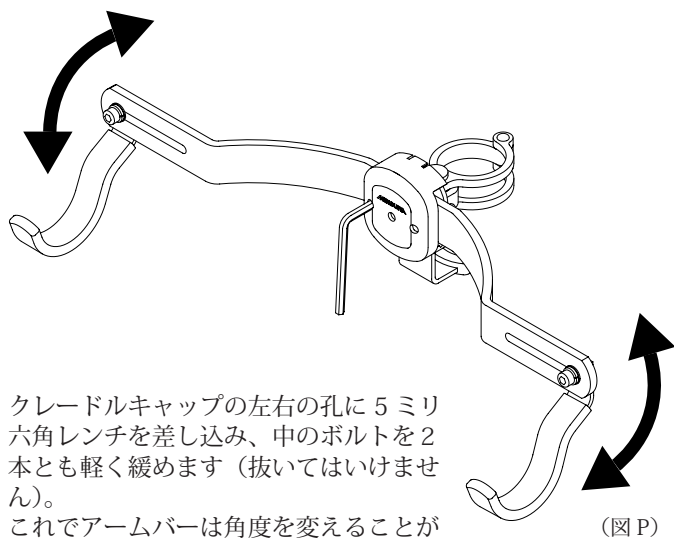


自転車を下ろした状態で、フックをアームバーに止めているボルトを緩めて動かします。(図 O)
できるだけ左右対称になるような位置で使います。
一方に偏らせると不安定になる元です。



自転車を搭載したままの状態ではフックのスライド調整を行わないでください。
不意にフックが抜け、その際に自転車が落下してしまう恐れがあります。

アームの角度調整のしかた



クレードルキャップの左右の孔に5 ミリ六角レンチを差し込み、中のボルトを2本とも軽く緩めます(抜いてはいけません)。
これでアームバーは角度を変えることができます。(図 P)

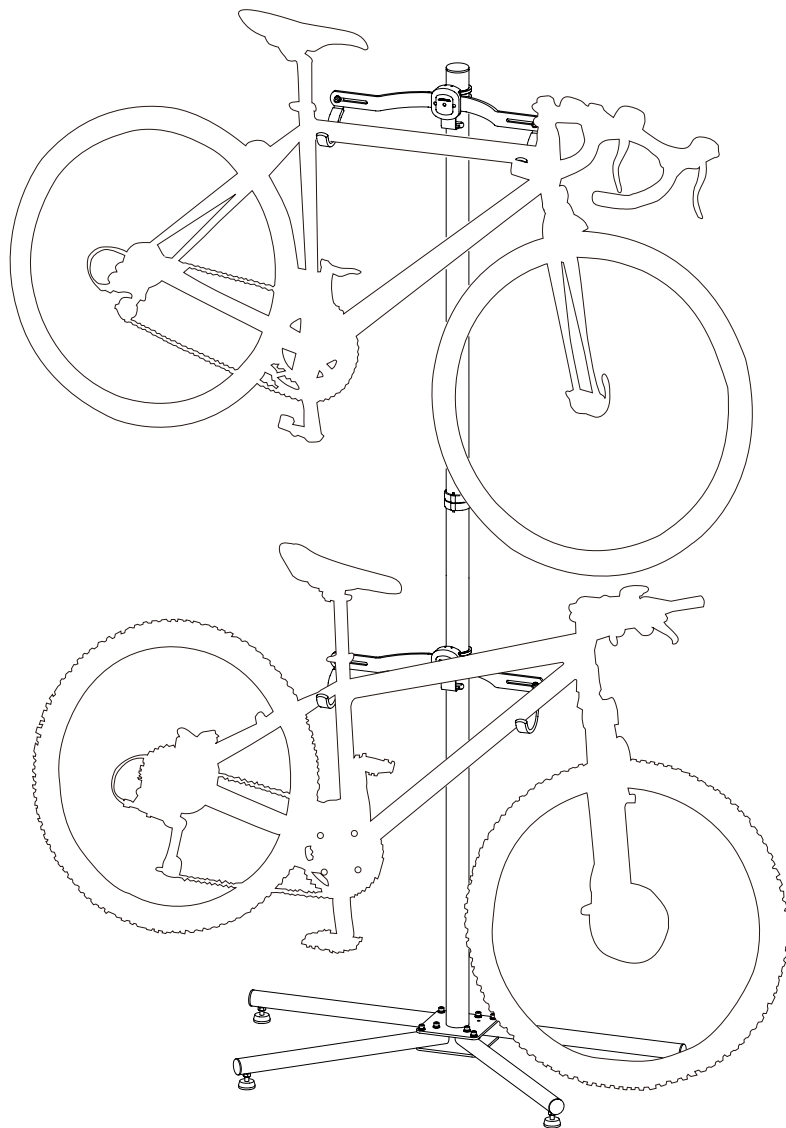
角度が決まったら再びボルトを2本ともしっかりと締めて固定します。

自転車を掛ける

P-500に自転車を搭載するには、フックを自転車フレームの下に掛けて支えます。

一般的には左右両方のフックでトップチューブを受けるように掛けますが、トップチューブの傾斜がきついスローピングフレームやクレードルを斜めに設定した場合は、片側のフックをシートチューブとシートステーとの交差部の下に掛けて位置決めしてやり、残りをトップチューブ下もしくはダウンチューブ下で受けるようにすると安定します。

自転車は水平よりもやや前下がりの姿勢にするのがいいです。(図Q)



(図Q)



自転車を前上がりの姿勢にしてしまうと前輪の重さでハンドルが勝手に切れ込んできて、ブレーキレバーがフレームに当たったり、周囲のものを引っかけたり、指を挟んでしまうなどのトラブルを起こす恐れがあります。

この問題を防ぐためには自転車を水平よりやや前下がりの姿勢にするか、あるいはダウンチューブと前輪とをストラップなどで結んで動かないようにするなどの措置が必要です。



フックによるフレームへの色移り問題は皆無ではありません。心配な方はフックが直接フレームに接しないように、バーテープの切れ端などを間に挟むなどして対処してください。



重い自転車を下段に、軽い自転車を上段に掛けるようにすると安定が増します。下段の自転車を外し上段のみに自転車が残っている状態はバランス的に不安定になります。転倒にご注意ください。

製品保証期間

本商品の保証期間は、お買い上げ日から起算して**1年間**です。その間に発生した、製造者側に責任のある不具合についてはその費用は弊社が負担し、無償修理もしくは商品交換を行ないません（修理か交換かの判断は弊社が行ないます）。そのため、購入日の証明となる販売店発行のレシートまたはそれに類する書類は、いつでも提出できるように残しておいてください。ただし不具合の発生原因が製造者側でない場合、たとえば誤った使い方をした場合やボルトを斜めにねじ込んでしまった場合、製造者に許諾を受けていない改造や分解を行なった場合、天災や騒乱、工場出荷後の輸送中に起因する破損など、さらに本商品の最初の購入者でなかった場合につきましては、この保証は適用されず有償対応となります。詳細につきましては、添付の「製品保証規定について」カードをご参照ください。また最新情報につきましては、適宜当社のウェブサイトをご参照ください。www.minoura.jp

フックによるフレームへの色移り問題

重要

自転車のフレームの塗装材質（特にクリア層）によっては、フックと接触している部分が黄変するなどの色移りが稀に起こることがあります。特に白色などの淡色のフレームでは目立ってしまいます。弊社でもこの問題を解決しようとさまざまな研究してきましたが、現時点ではこれといった決定的な解決策が見つかっておらず、フックのエラストマー材と塗料との相性としか言いようがありません。

この問題を防止するためには、フックとフレームとの密着を避けることが有効です。すなわち、フックの内側にバーテープ片などを貼り付けたり、あるいはフック全体をバンデージのようなもので巻いてしまい、直接触れ合わないようにすることが効果的かと思えます。ご迷惑をお掛けしますが、色移りしては困るという方は自衛のほどよろしく願いいたします。

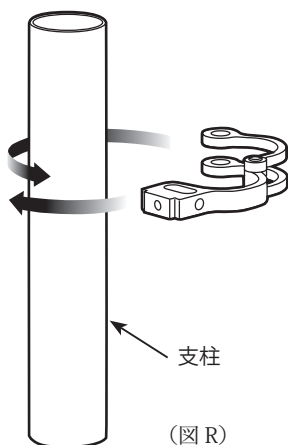
お使いになる自転車のサイズやオプション品のレイアウトによっては、クレードルの取付位置を移動させることがあります。P-500の支柱は上下とも同じ太さなので、基本的にはそのままクランプを緩めてからずらすだけで十分ですが、大きく動かすには、いったんクランプを外して付け直した方が支柱に傷が付かなくていい場合もあります。その際は以下の手順行ないます。

1 クレードルを大きく移動させるには、クレードルをクランプに取り付けたままで、クランプだけを分解して支柱から取り外した状態で行ないます。まず上からのピボットピン固定ボルトを緩めて抜き、クランプ側面からねじ込んであるクランプ締め付けボルトを抜き、最後にピボットピンを抜きます。これでクランプを開いて外すことができます。

2 開いたクランプを改めて支柱に巻き付けます。(図R)

クランプには1本アーム側と2本アーム側とがあり、以下の説明では1本側を右にした姿勢で装着していますが、これはどちら向きでも構いません。

【クランプの説明のため、ここではクレードルを見せていません】



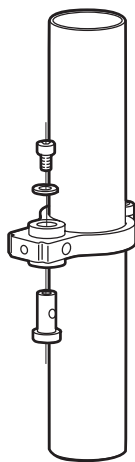
(図R)

3 重ね合わせたクランプの下側から3つの孔すべてを通してピボットピンを通し、上から平ワッシャを通したピボットピン固定ボルトを軽くねじ込みます。(図S)



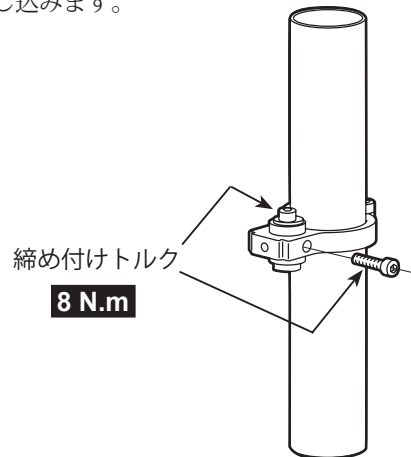
クランプには左右の方向性はありませんが、ピボットピンは必ず下から挿入され、ピボットピン固定ボルトは上からねじ込まれる必要があります。

ピボットピン固定ボルトはまだ完全には締め込まないでください。次の作業が行えなくなってしまう可能性があります。



(図S)

4 ピボットピンを回転させ、ピンの側面にあるネジ孔とクランプ右側側面の孔とを合わせます。その状態でクランプ締め付けボルトをピボットピンにねじ込みます。



(図T)

5 先に側面からのクランプ締め付けボルトを、続いて上からのピボットピン固定ボルトを **8 N.m** で締め込んで固定します。(図T)

クランプを少しずらすだけの場合

6 同じ支柱上をずらすだけの場合は、ピボットピン固定ボルトを緩め(外さない)、クランプ締め付けボルトを緩める(こちらも外さない)だけでクレードルを移動させることができますようになります。



クランプは十分に緩めてからクレードルを動かすようにしてください。緩めが少ないと、クランプを移動させる際に支柱に稲妻形の傷を付けてしまうことがあります。ねじらないでまっすぐに動かすのがコツです。